

大井岳夫 県政だより

2021年1月号



安全安心は、与えられるものではなく、構築していくもの

私は、昨年4月の選挙にて「地域の安全安心を守る」ことを第一に掲げました。その安全安心は、自然に与えられるものではなく、守っていくものであり、再度構築していくものであることを、昨年の台風災害、そして新型コロナウイルスの感染拡大に直面する中で、痛感しました。

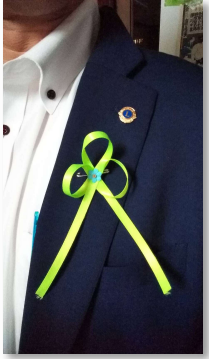
政治の最も重要な役割は「皆様の生命財産を守り、安全安心を確保すること」その根底のうえに、日常の生活や経済活動は成り立っていると、私は考えています。

今まで体験したことの無かった脅威の中、安全安心を再構築すべく、活動してまいります。



■ 新型コロナによる差別・誹謗中傷の根絶を！

～ シトラスリボンプロジェクトより ～



シトラスリボンプロジェクトとは、新型コロナウイルスに感染された方や医療従事者への差別、誹謗中傷を無くし、思いやりのある社会を目指す運動です。

3つの輪は「地域」「家庭」「職場もしくは学校」を表しています。

「ウイズコロナの時代」と言われてはいるものの、行動や心が追い付いていないように感じています。新型コロナウイルスを必要以上に恐れず、正しい知識を持ち、適切な対策を講じながら、日常生活を送りましょう。

感染予防に努めていても、感染してしまうことがあります。陽性判明者やそのご家族、医療従事者を守っていくために、皆様のご協力をお願いいたします。

※県HPに作り方が掲載されています ⇒

長野県 シトラスリボン

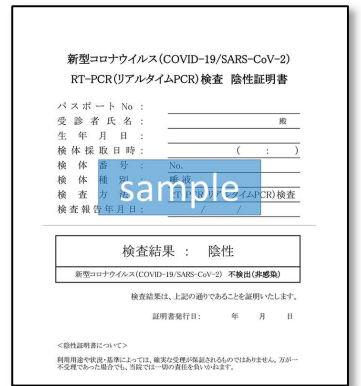
検索

■ 新型コロナウイルスの陰性証明を！

～ 新型コロナより回復された方の訴えより ～

PCR検査にて新型コロナウイルス陽性反応が出、一定期間経過後、再検査にて陰性となり回復された方より「陰性と判定された結果報告書は、検査を受けた医療機関に郵送されるのみで、自分の手元には届かない。そのため、陰性になったことを口頭で伝えなくてはならないことから、周囲の不安を払拭できず、避けられている気がする」とのお話を伺いました。

現在、陰性証明を受けるためには、自己負担で、民間の検査センターを受診するしかありません。差別や誹謗中傷を無くし、感染から回復された方(退院等は県内で999人。12月26日現在)の職場やコミュニティへの復帰を後押しするためにも、陰性である事実がわかる報告書(証明書)が、本人のもとに届くよう、取り組んでまいります。



■ 一般質問・委員会審査(質問を通して、下記の提言を行いました)

<一般質問より>

(1) コロナ禍における避難所運営について

本年7月に発生した豪雨災害の際、九州の避難所では新型コロナ対策のため避難所の定員を大きく減らした結果、避難を断られるケースがあった。本県においては、仮に避難所が定員に達したとしても、状況に応じて臨機応変で、柔軟な受け入れを図るべきである。

また、濃厚接触者の情報については従来、県しか知り得る状況に無かったものの、避難所における感染拡大を防ぎ、濃厚接触者の命を守る観点から、市町村と一定の情報共有をすべきである。

⇒ いずれも提案の通り対応する、と県の姿勢を確認。

(2) インターネット(ゲーム)から本(読書)への回帰を！

県が実施したアンケートによると、ネットをやり始めるとなかなか止められない、注意されるとイライラするとの回答が、小学生では47%、中学生は52%にものぼり、コロナ禍で、ネット依存が深刻さを増している。

ネットゲームの際限ない課金システムが社会問題となっている中、読書であれば、図書館を利用すれば大きな出費にはならない。今こそ、ネットやゲームから読書への回帰を、教育現場より呼びかけていくべきである。

<県民文化健康福祉委員会の委員会審査より>

① 介護施設職員へのPCR検査推進を

介護業界は新型コロナの影響もあり、人員確保が更に困難な状況である。体調を崩した職員はクラスター対策のため、自主的に1週間から2週間、自宅で待機せざるを得ないがPCR検査を受けることができれば、短期間で現場に復帰することができる。

医療現場はもちろんだが、介護従事者など **エッセンシャルワーカー** の皆さんには、PCR検査へのハードルを下げる必要がある。

※社会を支えるために不可欠な仕事に従事している方のごこと

② 新型コロナウイルスワクチンについて

ワクチン接種が来年3月より始まる見通しとの報道があるが、県においてワクチンの確保に努め、市町村と連携しながらワクチン接種希望者をあらかじめ把握し、医療従事者、高齢者、基礎疾患保有者など優先順位を決め、速やかな接種体制を確立いただきたい。

⇒ 県答弁) 接種は市町村が責任主体となり推進していくこととなっており、県の責務として、接種における優先順位を検討し、流通の確立に努めていきたい。

■ 活動報告

□ 年末、GoToトラベル全国一時停止を前に緊急知事要望を行いました(12月22日)



佐久地域選出の県議会議員、市町村議会議長が参加し、山梨県議会議事堂で行われました。
今後も定期的な会合を行うことを申し合わせた他、署名活動実施の提案も。山梨県～静岡県のルート(画像)は、来年夏に全線開通の予定です。

□ 山梨県議会の皆様と、

中部横断道建設促進に向けた意見交換会(11月5日)

